

「地域文化とデジタルアーカイブ」

岐阜女子大学 久世均

首里城



鎌倉芳太郎

- ◆ 香川県出身の染織家
- ◆ 1921(大正10)年に沖縄女子師範学校の教師として赴任し、琉球芸術に魅せられる
- ◆ 琉球文化の保存、調査研究の発信に取り組んだ
- ◆ 1973(昭和48)年「型絵染」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定

「鎌倉芳太郎資料」

- ◆ 鎌倉芳太郎が沖縄調査の折に沖縄現地で収集した琉球・沖縄芸術関係資料
- ◆ 大部分が沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館に収蔵
- ◆ ガラス乾板(1229点)、台紙付紙焼き写真(851点)、調査ノート(81点)は、重要文化財に指定

「鎌倉芳太郎資料」



十七代尚瀨(しょうこう)王御後絵
(沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵)

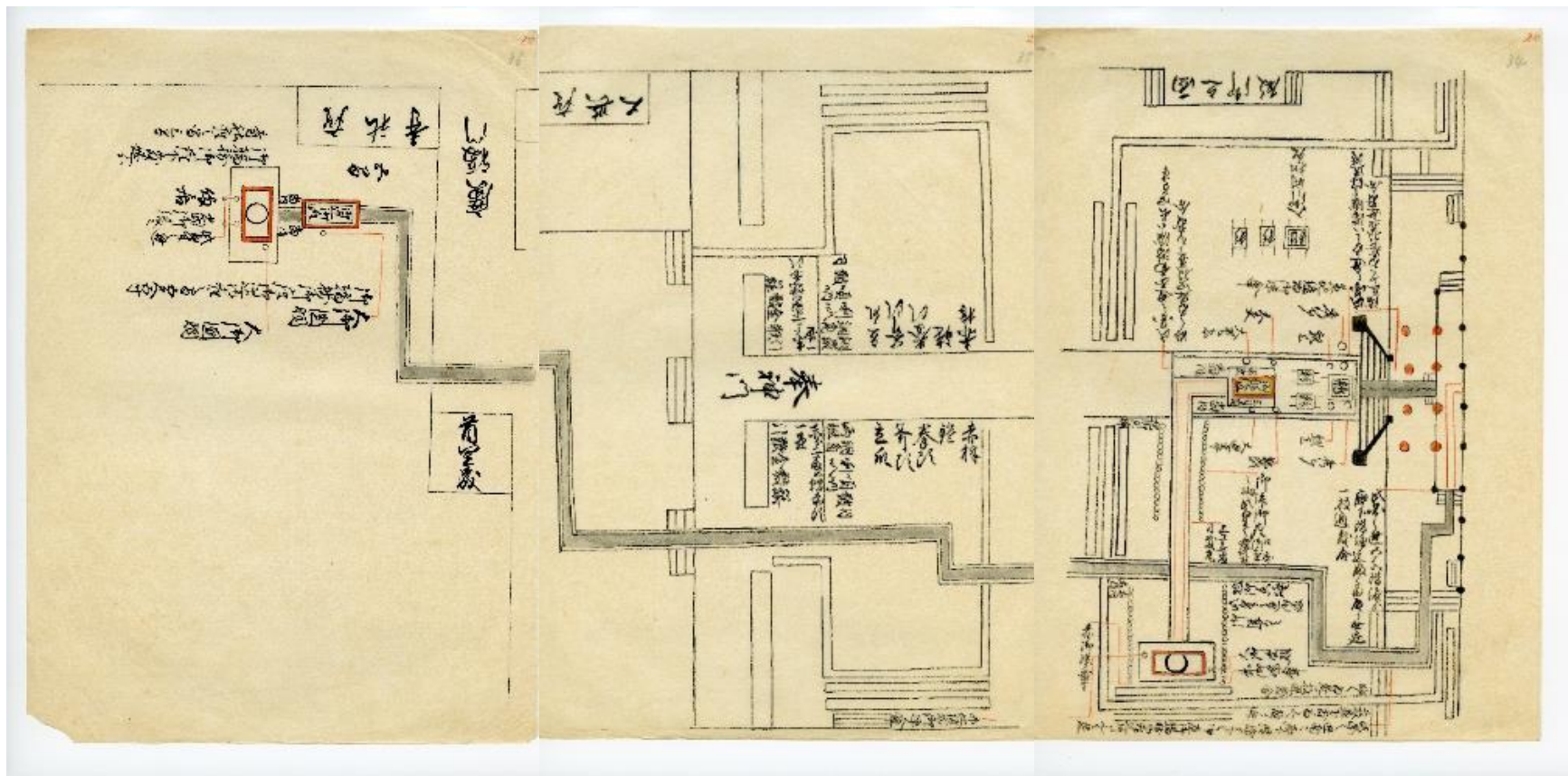
鎌倉芳太郎と首里城

- ◆ 1924(大正13)年、首里城取り壊しの動きを止める働きかけを行う
- ◆ 沖縄戦で消失した首里城復元の際の「鎌倉芳太郎資料」の活用

首里城復元における鎌倉資料

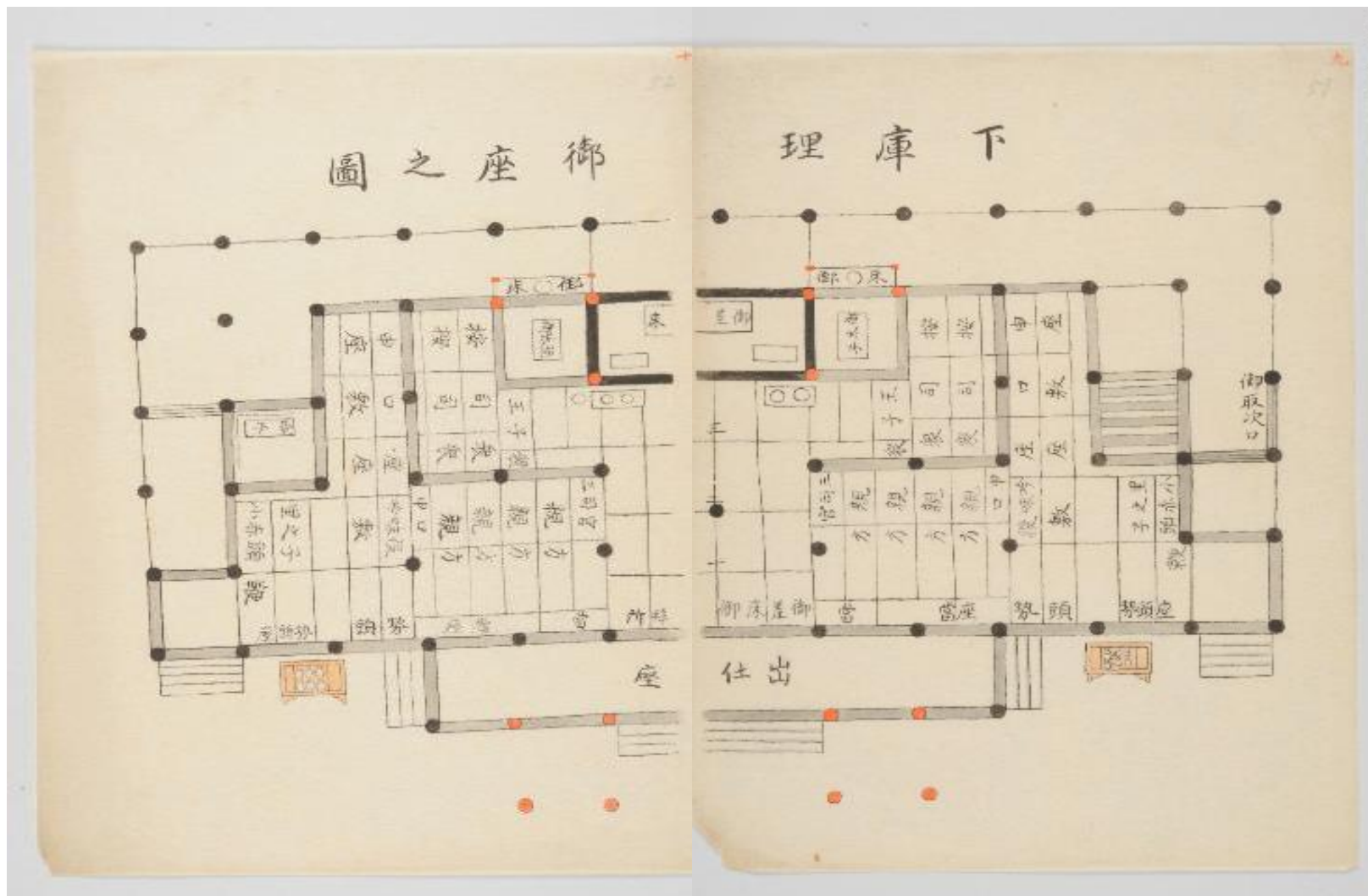
- ◆ 首里城復元においては、鎌倉芳太郎が残したノートや写真が大きな役割を果たした
- ◆ 岐阜女子大学主催の特別講演会において、高良倉吉氏は首里城正殿内の国王の玉座「上庫理御差床」の復元における「鎌倉芳太郎資料」の活用について多く語っている

首里城復元における鎌倉資料



ずちょう しーどうほう
「図帳[勢頭方]」

首里城復元における鎌倉資料



ずちょうあたいはう
「**図帳**[当方]」

「従来のデジタルアーカイブ構想」

1. デジタルアーカイブ

- ・「デジタルアーカイブ」という和製英語が1994年頃誕生 ← 月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)
- ・「有形・無形の文化遺産をデジタル映像の形で記録し、その情報をデータベース化して保管し、随時閲覧・鑑賞、情報ネットワークを利用して情報発信」というデジタルアーカイブ構想

デジタル・アーカイブ構想 (*Digital Archives*)



Wonder沖縄

- ◆ 平成14年度沖縄デジタルアーカイブ整備事業により制作されたデジタルアーカイブ
- ◆ 整備費用は、国庫からの補助金10億円を含む15億5369万3000円(県は3分の1負担)
- ◆ コンテンツ制作事業とコンテンツ提供(発信)事業に大別できる

Wonder沖縄



Wonder沖縄



首里城

Contents

- 首里城の時代
- 首里城の受難
- 新しい時代へ
- 琉球風水都市計画
- 首里城を巡る人々

- ◆ 動画ページ
- ◆ サイトマップ
- ◆ サイトについて
- ◆ 静止画アーカイブ

Japanese / English



Copyright (C) 2003 Okinawa Prefectural Government. All rights reserved.





首里城
聖なる都城

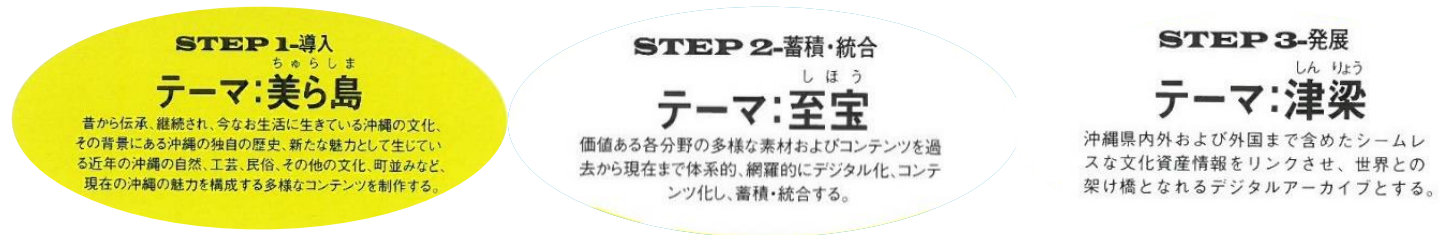
「Wonder沖縄」とは

デジタルアーカイブの枠を超え
た総合的な事業

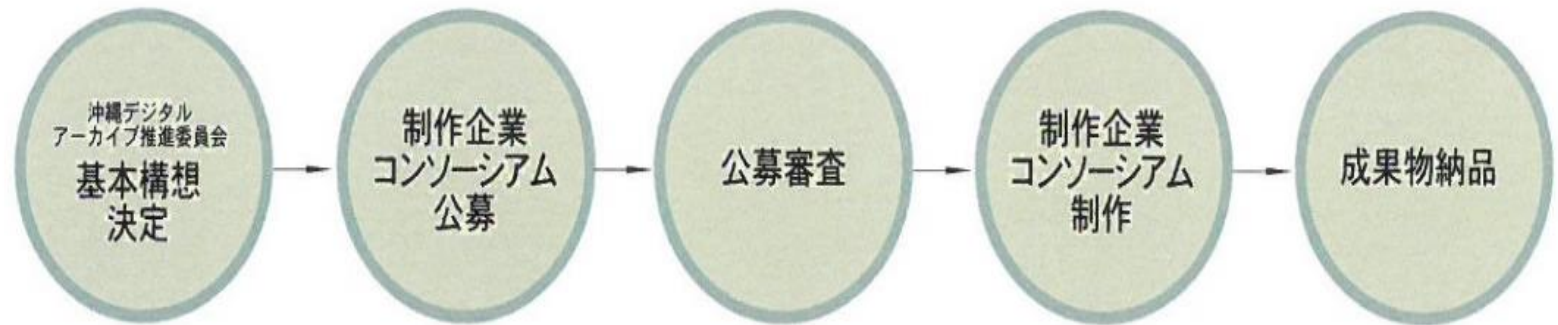
平成22年度末(2010年3月末)をもって
Web用コンテンツの運用停止

Wonder沖縄におけるアーカイブプロセス

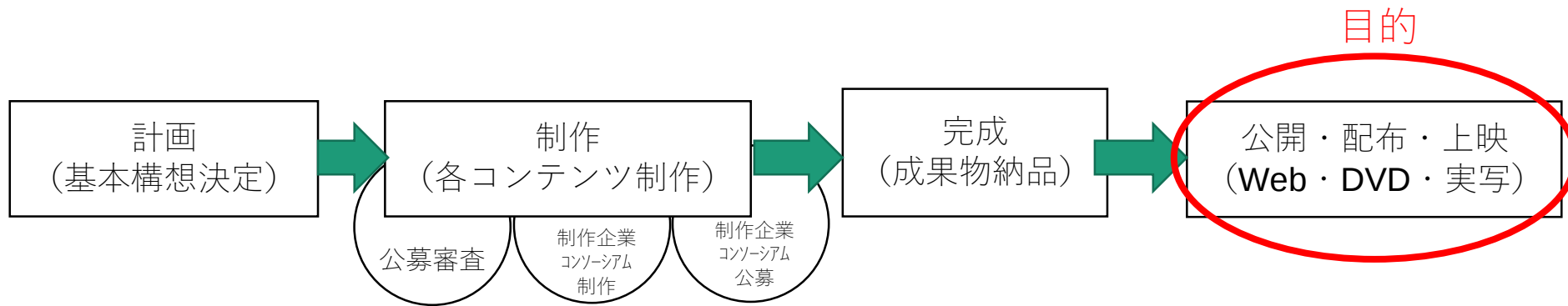
制作実施計画



事業沿革

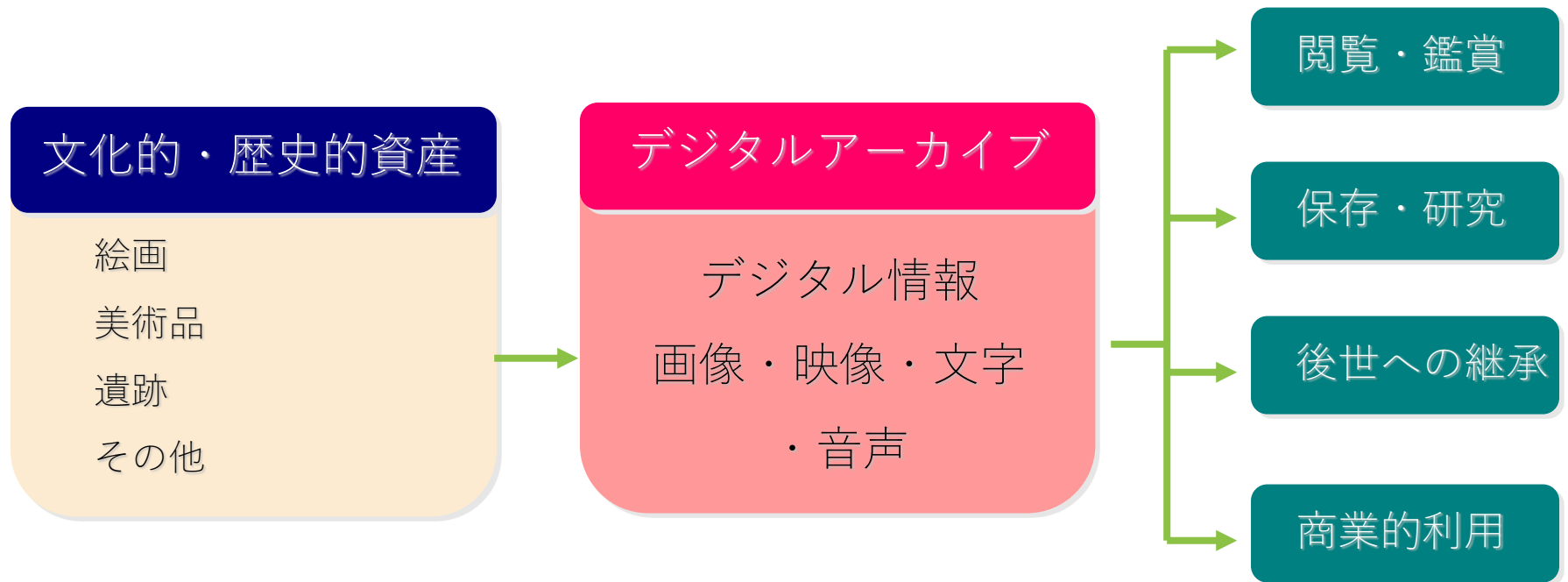


Wonder沖縄における問題点



「長期保存」「知の増殖型サイクルの視点」の
デジタルアーカイブプロセスが抜け落ちている!!

「従来のデジタルアーカイブ構想」



デジタルアーカイブ：文化的・歴史的資産をデジタル化して、データベース化したもの

「Wonder沖縄」のアーカイブプロセスでは何が足りなかったか。

「本学のデジタルアーカイブの取り組み」

- 平成16年～平成18年度：文化創造学部は文部科学省の“現代的教育ニーズ取組支援プログラム”（現代GP）採択され、デジタルアーカイブに必要な文化・処理の知識・技能等を育成する国内初の「**デジタルアーキビストの養成**」のカリキュラムを開発
- 平成18年：デジタルアーキビスト資格設定の要望が出され、特定非営利活動法人「**日本デジタルアーキビスト資格認定機構**」が設置
- 平成19～21年度：文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」として、現代GPの成果を、社会人を対象として応用することを目的に「**社会人のためのデジタルアーキビスト教育プログラム**」に採択
- 平成20～22年度：文部科学省のGPに選定された組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院GP）「**実践力のある上級デジタルアーキビスト育成**」では、大学院生の“上級デジタルアーキビスト”の教育プログラムの開発や実践力育成

「デジタルアーカイブの発展」

- **2000年**からデジタルアーカイブの研究をはじめ、現在まで下記のような研究開発をしながら、**約20万件の地域文化資源（文化活動、観光、衣食住、産業、教育等の資料）の整理・保管・流通**を行い、全国的な利用を図ってきた。
- デジタルアーカイブの**メディア環境、収集・記録、著作権・プライバシー等の選定評価項目、メタデータ、シソーラス、保管領域、長期・短期保管、利用など一連の理論的体系化および実践方法の研究**をし、広く実用化を図った。（～**2012年**）
- 文部科学省の現代GP関係で大学、社会人、大学院の三分野（**2004年～2010年**）で採択され、人材養成の教育体系を確立し、**全国でデジタルアーキビストの資格取得者を多数養成**している。デジタルアーキビスト資格については、平成26年度から大幅に希望者が増え、デジタルアーキビスト資格の社会的な価値が増大していることがわかる。
- **2006年**から**知的創造サイクルの研究**をはじめ、**2011年**には修学旅行用冊子を開発し、約6万人が利用。また、**2013年**には教育における「知の増殖型サイクル」の基本システムを研究し、それを用いて2015年には沖縄県の学力向上を行った。

「デジタルアーカイブの発展」

- 2015年：デジタルアーカイブサミット2015
文化資源戦略会議では、アーカイブ立国宣言
2020年に向けて「**デジタルアーカイブ整備基本法（仮）**」
- 2017年5月：国立国会図書館、国立国語研究所、国立国文学研究資料館、
国立情報学研究所、京都大学、慶応大学、早稲田大学、
東京国立博物館等とで発足した「**デジタルアーカイブ学会**」
- 2017年11月：本学で平成29年度から5年間 文部科学省
私立大学研究ブランディング事業 採択
「地域資源デジタルアーカイブ による知の拠点形成のための基盤整備事業」

「知識基盤社会と知識循環型社会」

知識基盤社会

「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」

知識循環型社会

「知識を生み出し、加工し、使いこなし、人々に伝えて、みんなで共有することによって新たな知識を生み出す社会」

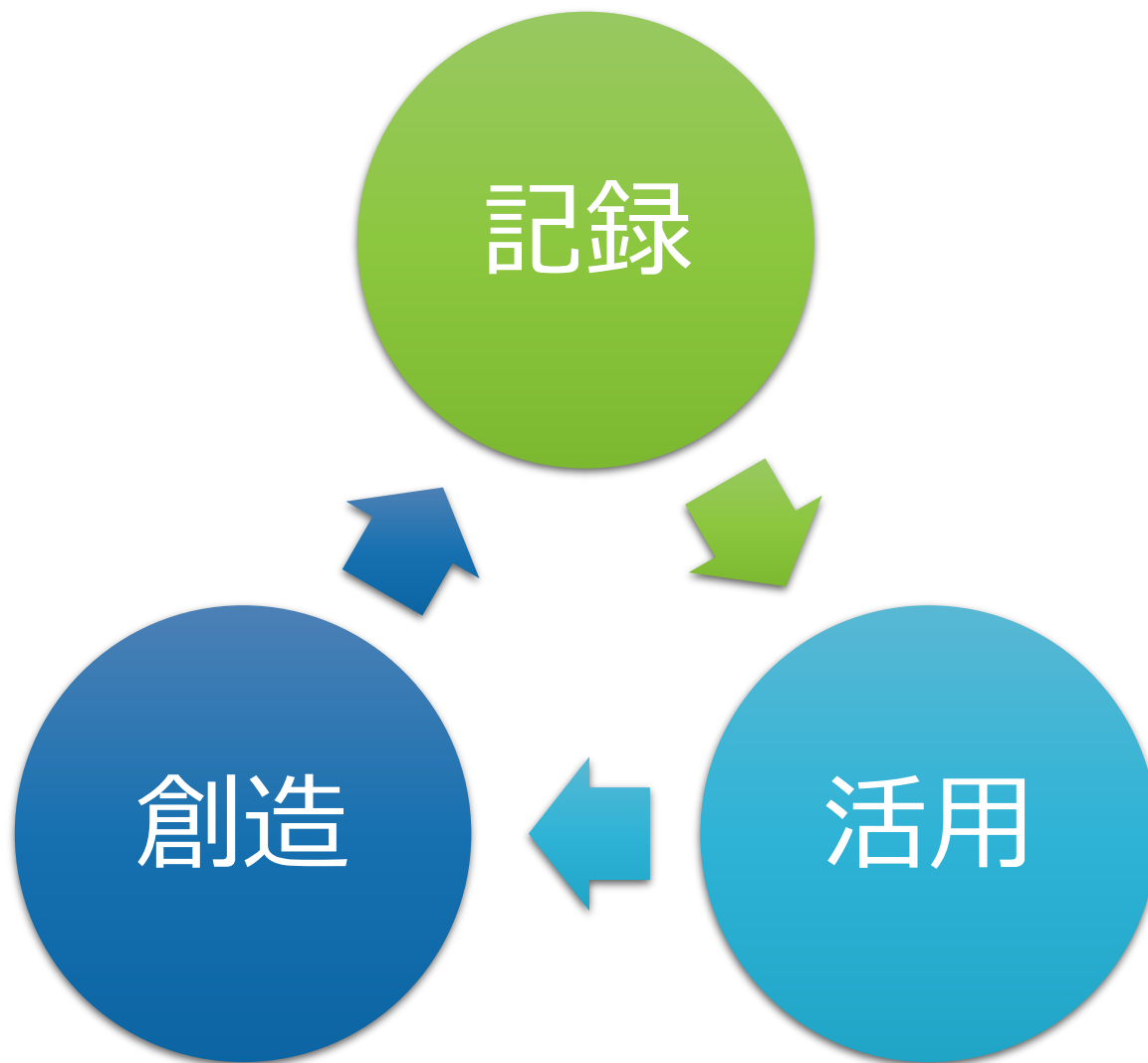
「デジタルアーカイブの発展」

知識基盤社会

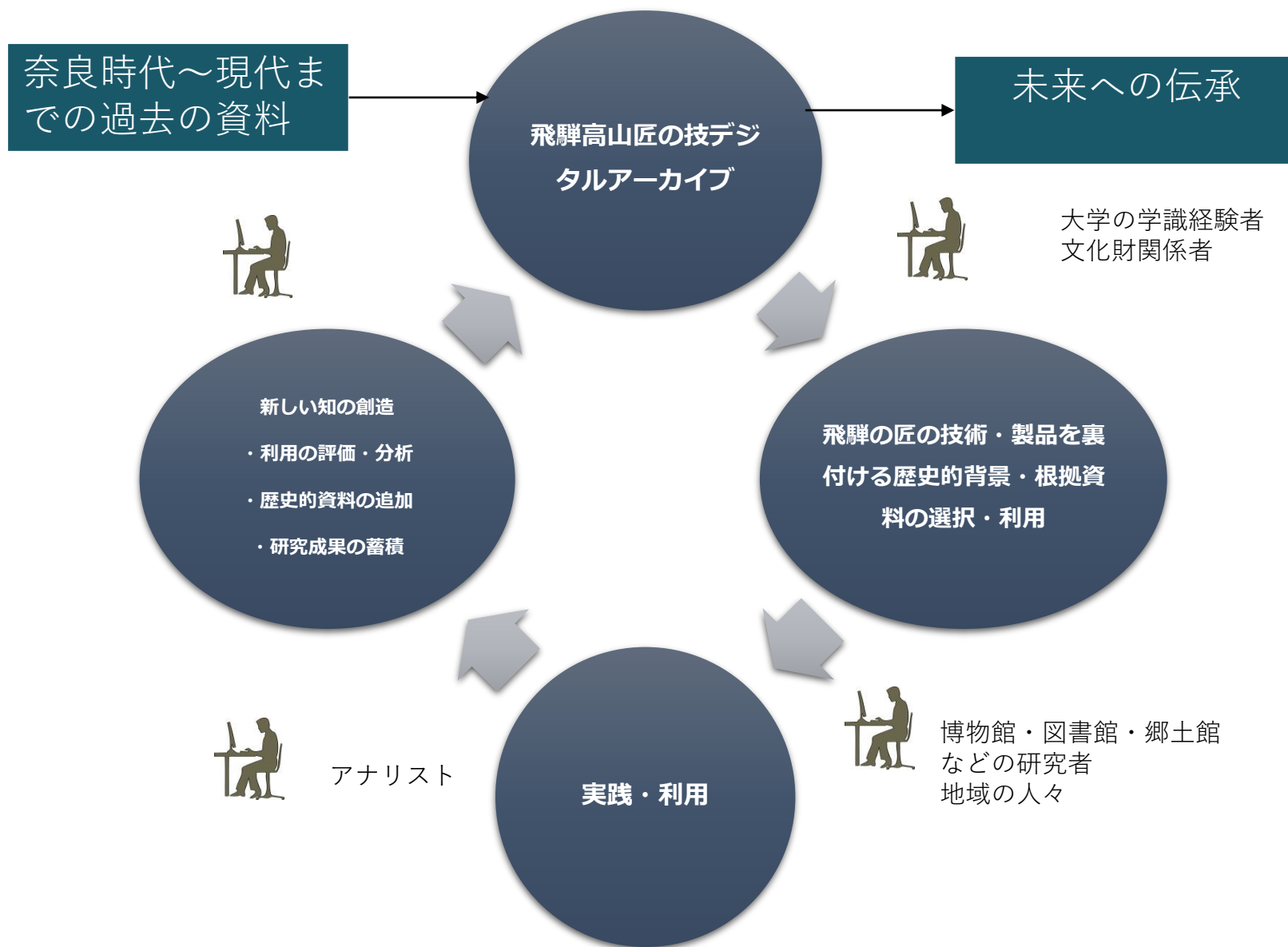


知識循環型社会

知的創造サイクル



地域文化における知的創造モデルの適応



知的創造サイクルにおける
メタデータの項目はど
うすればよいか。

デジタルアーカイブ社会



デジタルアーカイブ社会



地域文化における知的創造サイクル

